ENTERTAINMENT

『美しき愚かものたちのタブロー』
原田　マハ／著
文藝春秋　2019年

「日本の青少年のために本物の芸術を届けたい！」

日本に西洋に負けない本格的な美術館をつくりたいという夢のために、私財を投げうってコレクションを買い続けた実業家・松方幸次郎。戦時下のフランスでそのコレクションをナチスから守り抜いた男。敗戦国である日本にプライドと美術品を取り戻した男。そんな男たちの熱い想いと奇跡が積み重なって誕生した、上野の国立西洋美術館をめぐる物語です。

史実に基づいたフィクションですが、その両者が絶妙なバランスで描かれていて、歴史的瞬間に立ち会っているような錯覚に陥ります。読み終わった後には芸術にふれに美術館に足を運びたくなるのでは…。

渋谷区にも区立松濤美術館という素敵な美術館があるのをご存知ですか？　散歩の途中にでも、ちょっと寄り道して立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

渋谷区立松濤美術館
電話　3465－9421
住所　渋谷区松濤2－14－14
京王井の頭線　神泉駅下車　徒歩5分

「ユースフルエイジ(Youthful Age)」はYA世代に送る、本・漫画・映画・音楽などのおすすめ情報を掲載した渋谷区立図書館が発行する定期刊行物です。

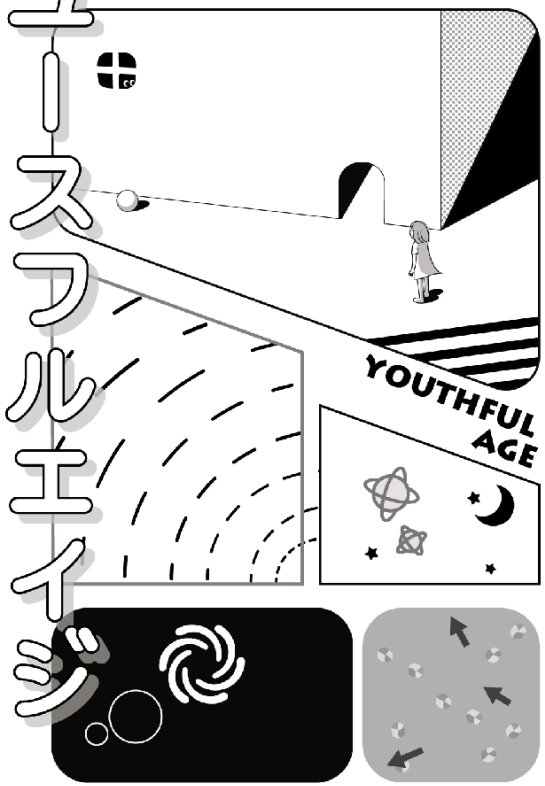
YA(ワイエー)とは…
Young Adult(ヤングアダルト)の略で、おおむね12歳から18歳までの人たちのことをさします。

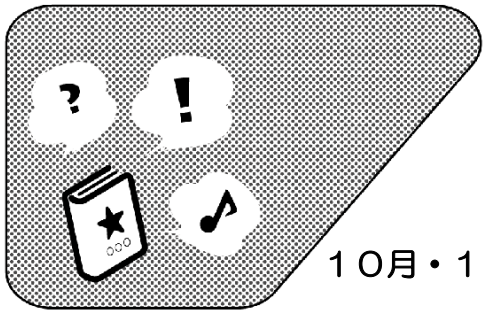
ユースフルエイジ
2021年10月・11月号【No.4】

発行／編集　渋谷区立図書館
株式会社図書館流通センター
発　行　日　2021年 10月

渋谷区立中央図書館
電話　3403－2591
住所　渋谷区神宮前1－4－1

ユースフルエイジ





１０月・１１月号
【No.4】

SHIBUYA CITY LIBRARIES

Pick Up!

Recommended books

学校、友達、将来の事…。人にうちあけにくい悩みでも本を開けば解決のヒントが。

～ 悩んでいる君に ～

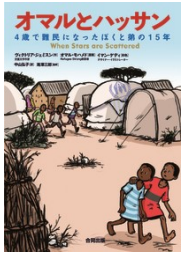
『14歳からの社会学』
宮台　真司／著
世界文化社　2008年

子どもから大人への成長過程にいる君の目には今の社会はどう映っているだろうか？なかなか受け入れられない社会の現実にも出会っているかもしれない。

当書において著者は次のように述べている。楽しいことであれ苦しいことであれ、人は必ず社会の影響を受けている。そんな社会に対して「なぜ？」「どうして？」と立ち止まってしまう君には見込みがあると。この本を通して「社会の本当」を知ってほしいと。

著者によれば社会も人間も不完全なもの。だからこそ人間は生きていけるし、社会は回っていける。完全になってしまえば社会も人間も進む意味はなくなってしまう。ゆえに人間は常に完全さを求めて前に進むことができるのだという。そして社会で生きていく中で一番大切なことは、社会の外には広い世界があるということを感じながら生きることだと締めくくる。

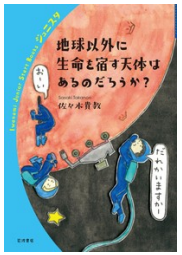
「これからの社会」を生きる君への温かいメッセージが込められた1冊。



『オマルとハッサン』
ヴィクトリア・ジェミスン／作
オマル・モハメド／原案
イマン・ゲディ／彩色
中山　弘子／訳
滝澤　三郎／監修
合同出版　2021年

ソマリアで生まれたオマルは内戦で父を殺され、母と生き別れに。弟のハッサンとケニアの難民キャンプで暮らすこと15年。「難民であるということは、未来がまったくないということです」難民生活の記録を描いたグラフィックノベル。

New!



『地球以外に生命を宿す天体はあるのだろうか？』
佐々木　貴教／著
岩波書店　2021年

天文学のはじまりから最新の惑星探査や宇宙望遠鏡の観測結果まで、わかりやすく解説した惑星科学入門書。生命がいるかどうか重要なカギを握るハビタブルゾーンとは…。太陽系の外では第2の地球候補が見つかり始めている！

『ほとんど憲法』 上・下
木村　草太／著
朝倉　世界一／絵
河出書房新社　2020年

仲良くできない人と距離をとるのは、憲法の保障するプライバシー権。小学校・中学校の授業料がタダなのは、憲法で決まっているから。毎日の生活と憲法が実はつながっていることを、意外なエピソードとかわいいマンガでわかりやすく解説。

『飛ぶための百歩』
ジュゼッペ・フェスタ／作
杉本　あり／訳
まめふく／イラスト
岩崎書店　2019年

「ぼくは目が見えない。でももう子供じゃないんだ！」
14歳の盲目の少年ルーチョはただ、「目が見えない」からって周りから差し伸べられる手が好きになれなかった。周りの目を気にして素直になれないルーチョだったが、大好きな山登りで出会う仲間から大切な何かに気づかされていく。

COLUMN

サードプレイス

THE GREAT GOOD PLACE

サードプレイスとは、自分が住んでいる家（第１の場）、学校や職場（第２の場）でもない、第３のとびきり居心地の良い場所のことです。１９８９年にアメリカの社会学者レイ・オルデンバークが提唱しました。ストレスの多い現代社会において、心が休まる場所が必要だと考えたからです。

家での自分、学校や職場での自分…。肩書きや役割りを忘れて、ほっと一息つきたくなることはないでしょうか。

ふらりと立ち寄れる図書館も幅広い世代のサードプレイスとなるのではないでしょうか。

渋谷区には個性豊かな図書館が１０館あります。あなたのサードプレイスに図書館を加えてみませんか。